

平成7年10月24日第3種郵便物認可 2011年8月10日発行(毎月1回10日発行)・通巻255号

2011

[月刊]  
**En-ichi** 

**8**  
no.255

# 魂の教育を実践する

インタビュー

## 「宗教」「家庭」、中学生にどう教えるか

教育研究者 杉原誠四郎



日本の家庭を守る教育情報誌

今月の  
焦点

学習指導要領では(中学三年生で教える)「公民科」で宗教について触れることになったのです。…しかし、実際にはほとんど書いていない教科書もあります。

「宗教」「家庭」「公共の精神」中学生にどう教えるか 杉原誠四郎…7

親に対してこの二つの言葉を伝えると、心の中の葛藤が減ってきて、親へのポジティブな思いが増えていくことを感じられると思います。…そうして親子のポジティブな気持ちの交流が始まります。

両親に伝えたい「ありがとう」と「ごめんなさい」 塚越克也…11

各家庭が家庭教育の重要性を改めて見直す必要があるのではないかと。そして家庭を基礎にした社会づくりをすべきではないか。そうした思いから有志で「親育を考える会」を設立することになったのです。

家庭を基礎に学校支援と地域づくり 花香健司…14

(米国の) 最新の研究では…さまざまな家族形態のうち、カップルが法的に婚姻状態にあることが、もっとも経済的に安定しており、子供の経済的成功にも好影響を与えている。

子供の成功には両親の婚姻形態が影響…16

- 
- 3 巻頭言  
異宗教の理解は平和をもたらす 武蔵野学院大学名誉教授 前川 清
- 
- 4 教育再生への課題と展望  
宗教的情操と人格教育、公民教科書から考える  
「宗教」「家庭」中学生にどう教えるか 教育研究者 杉原誠四郎
- 
- 10 家庭学  
両親に伝えたい言葉「ありがとう」と「ごめんなさい」 臨床心理士 塚越克也
- 
- 12 情報ファイル  
「単独世帯」全世帯の3割超、最多の家族形態に  
携帯利用のルール、親子で意識のズレ
- 
- 14 私の教育実践  
「親育を考える会」家庭を基礎に学校支援と地域づくり 親育を考える会代表 花香健司
- 
- 16 ワールドアフェアーズ  
子供の成功には両親の婚姻形態が影響 一米シンクタンク研究
- 
- 18 発言  
福沢諭吉—新しい日本建設を援けた「平民」の生涯 哲学者 河端春雄
- 
- 20 子育ては絵本で大丈夫  
「たなばた」約束が守れたら 劇団天童／天童芸術学校代表 浜島代志子
- 
- 21 教育情報  
薬物乱用防止は「家族の絆」の強化から
- 
- 22 Book Review / 読者の声
- 
- 24 歴史と伝統の探訪  
立山の開祖「佐伯有頼」と立山教育／富山



武蔵野学院大学名誉教授  
前川 清

## 巻 頭 言



「異宗教の理解は安全と平和を、  
誤解は危険と戦争をもたらす」

これらを実感したのは、海外諸国や国内における様々な宗教体験によってである。

キリスト教についてはフランスを中心とする二年半の欧州留学と大使館特別勤務時代、イスラム教とユダヤ教についてはエジプトを中心とする三年半の中東の大使館勤務時代の現地体験を通じ、それらの宗教を体感した。

欧州のキリスト教、中東のイスラム教とユダヤ教はいずれも一神教である。

その三大一神教の聖地の所在地エルサレムの旧市街を訪れ、アラブ・イスラエル紛争やパレスチナ紛争の歴史的原点に接した。

イスラエルとシリアの国境のゴラン高原は数度訪れ、国連のゴランPKO（平和維持活動）を視察した。ゴラン高原には、日本のPKO部隊約五十名が十五年前から派遣され、イスラエルとシリアにおける輸送業務を半年交替で行っている。筆者は、彼らのゴラン高原派遣前の教育を永年担当している。その教育で、「国際貢献任務を安全かつ適切に果たす為には、まず現地の人々に好意を持たれ悪意を持たれないこと、そしてそのためには両国の文化や伝統、とくにイスラム教とユダヤ教の宗教的慣習をよく理解しておくことが大切なこと」を特に強調している。

# 異宗教の理解は平和をもたらす

かのイラク戦争時は、サマワ地区に派遣される要員に、特にイスラム教の偶像禁忌の話をした。イスラム教は神と信者個人が直結している平等な宗教で、中間に偶像が入ることを禁じている。また、子供の頭を不用意に撫でるのはよくない。それら禁忌を尊重することは、安全に任務を遂行するに大切である。

中世の十字軍戦争に始ったキリスト教とイスラム教の一神教間の宗教対立は、現代では米欧諸国とイスラム教諸国の政治紛争化し、世界平和の大きな妨げになっている。

多神教たる日本の宗教は、平安末期から明治維新までの永年間に、仏教と神道が融合・共存する神仏習合態勢にあった。それが明治維新の近代統一国家の建設に伴い、神仏分離・廃仏毀釈の神道優位の宗教政策が採られた。

幸い、明治維新期の宗教内紛は先人の智慧と努力により回避されたが、神道優位のアンバランスは先の大戦末まで続き、大戦後によりやく日本本来の神仏協調共存態勢に戻り、以来、わが国の宗教情勢は安定している。

それだけに、寛容の精神をもって異教との共存・共栄を図る日本の伝統的多宗教性を有効活用し、国際的宗教戦争の解決ひいては世界平和に、日本がさらなる宗教的国際貢献をするように念願している昨今である。

宗教的情操と人格教育、公民教科書から考える

# 「宗教」「家庭」「公共の精神」 中学生にどう教えるか

「宗教」「家庭」や「公共の精神」をきちんと教科書で取り上げ、子供たちに教える必要がある。

## もともと人間に備わった「宗教心」

日本は宗教を真剣に考える習慣がありません。しかし教育から考えると、宗教を抜きに子供たちの人格を育成することはできないと言えます。本当の意味の「心の教育」にならないわけです。平成十八年に教育基本法が改正されました。宗教教育の箇所が「宗教的情操」という言葉を使うべきという主張も強くありましたが、結果として使われませんでした。

しかし、「宗教に関する一般的な教養及び宗教の社会生活における

地位は、教育上尊重されなければならない」(第十五条)という文言が入りました。「一般的な教養」という言葉で宗教教育の尊重を込めた形になっています。戦後、宗教教育が行われなかったことを考えたとき、そのことへの反省が込められていると考えていいと思います。これによって、教材として宗教的なものも導入することができるようになりました。

「宗教的情操」というのは、健全な自我にかかわる情操です。心には健全な自我が存在して、その自我が健全に自分を見ている時には、自分をコントロールする力が出てきます。心の中心の自我には自分



杉原誠四郎

すぎはら・せいしろう

教育研究者

1941年広島県生まれ。東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。城西大学教授、武蔵野大学教授等を歴任。著書に「教育基本法—その制定過程と解釈(増補版)」『日本の神道・仏教と政教分離—そして宗教教育(新訂版)』『日本の宗教教育と宗教文化』(共著)『日本の道德教育は韓国に学べ』『新教育基本法の意義と本質』他多数。



人間には「正義は良いもの」という感性や「助け合う」精神がもともと備わっている＝東日本大震災被災地のボランティア受付で登録をする若者たち。被災地には全国から多くのボランティアが集まった

を本当に大切にして、自分を正しい人間に育てていくような働きがあります。そのような広い視野を持つた心の状態の一つを「宗教的情操」と言っていたわけです。そのような視野を持たせることが宗教教育の意義でもあるわけです。「正義」を見たとき、それが良いものだという感性は、しつけられただけか以前に、子供の心には

ある程度共通して存在しています。「正義」を醜いと感じる人はいません。そういう意味では、人間の心には元々善なる傾向がある。また、人間の本性の中に「助け合う」という精神もある。そうでなければ、人間が社会集団を作って生活することはあり得ないわけです。ちっぽけな自分であるけれども自分のあり方を真剣に考える、大自然の偉大な存在に対して感謝の念を持つ。そのような「宗教心」は人間にはもともと備わっていると云えるのです。それを宗教教育によって、より強くできるわけです。

### 宗教が排除された 日本社会の問題

ところで、日本は事実上、学校では宗教教育を行ってきませんでした。

現在の憲法は宗教教育が全くできないかのような、完全分離であるかのような条文になっています（第二十条三項「国及びその機関は、宗教教育その他いかなる宗教的活

動もしてはならない」）。

憲法は、神道を排除する目的で、政教分離の一番厳しい敵対的分離を適用するため公の生活のところでは、宗教を全て排除するというような条文を作りました。ところが、宗教の意義をあまり意識してこなかった日本の社会において、この条文が一人歩きを始めたのです。結果として教育において宗教が全て排除されたわけです。

それによって問題も起こってききました。例えば、給食の時間に「いただきます」と唱することも「宗教的行事だから」と止めさせる地域が出てきたのです。

さらに現在、東日本大震災で亡くなられた身元不明のご遺体を市町村が弔うことができないというのです。自治体が僧侶を呼ぶと、公の機関が特定の宗教に便宜を与えることになるからだ。そんな馬鹿げたことは承服できないと、僧侶を呼んで弔っている市町村もあります。これは自治体の見識の問題でもありますが、宗教を真剣に考えてこなかった日本社会が問題

# 生徒から「神様っているんですか」と聞かれたら、人間として自分の考えを答える

を生み出していると私は考えています。

葬儀で僧侶や牧師を呼ぶことは確かに特定の宗派の行事をするものになります。しかし、それはその宗派の信仰を持っていない人に対しても開かれています。つまり祭祀に関係したものは、その宗派だけに閉じられた宗教行事ではなく、社会に開かれた、亡くなった人や遺族の心を最も大切にしたい見送りの行事です。宗派宗教としてのそのような死の儀礼に対しては、社会も寛容でなければならぬというわけです。こうした祭祀が政教分離に違反するものではないと

いうことをはっきりさせないと、政教分離問題は解決できません。

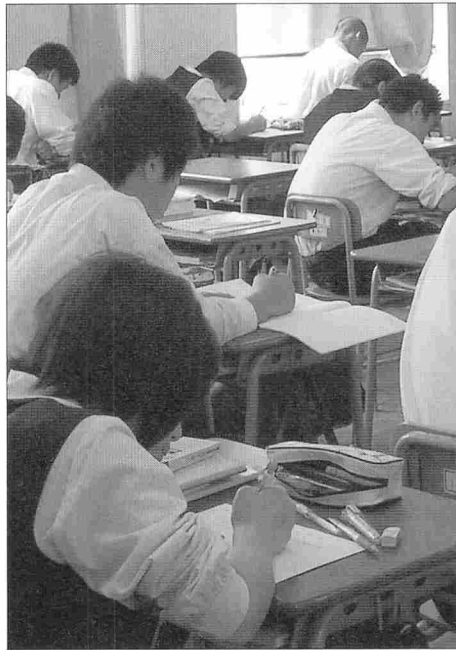
## 教員養成課程で「宗教」必修化を

例えば神社の祭りです。あれは天下の公道を一宗派に貸しているわけで、形式上、憲法八十九条に違反します。しかし、これは歴史に根付いた地域の祭祀であるという前提を認めることによって、社会的に宗教を大切にしたい、そして法律の世界と調和した状態を作ることが出来るわけです。

も教育学者で宗教が分からないというのは、実に嘆かわしいことです。もちろん宗教に対する批判もありませんし、それが当たっていることもあります。とはいえ、宗教を軽視して教育学が成り立つのかと言いたいですね。

宗教教育では、やはりどのような先生に教えられるかが大きな問題です。私は教員養成課程で「宗教」を教えないければならないと主張しています。「道徳教育の研究」は二単位あります。それと同程度に「宗教」を二単位、必修化しなければならぬと思います。

教師が宗教に対する識見を高めていくためには、教員養成課程で「宗教」を教えないければならないのです。「道徳教育の研究」は二単位あります。それと同程度に「宗教」を二単位、必修化しなければなりません。それをせず、ただ、宗教から逃げるばかりでは、宗教的情操を育成されなかった子供たちが増えてしまいます。



とにかく日本は、宗教をまじめに考えなくとも過ごせる社会ですから、政治家も法律家も教育学者も宗教について正しく認識することができない。なかで

ある大学の教職課程で、学生から「生徒から、神様っているんで

# 学習指導要領では「公民科」 で宗教に触れることになっ ている

すか、死後の世界であるんですかと聞かれたら、教員としてのどのように答えたらいいか」と質問されたとき、指導教授の回答は「特定の宗教に関することなので、答える必要はない」というものだったそうです。

もちろん特定の宗教を強制することはできませんが、教師として自分はこう考えていると答えることはできません。それが人間教育です。人間として自分の考えを答えたい方が、その先生が信じている答えを聞いたというだけで子供に感動が残ると思います。

## 道徳と宗教の共通点

それから道徳教育についてですが、道徳と宗教は違うと言えは違えます。道徳は社会性が強い内容です。それに比べて宗教は自分の内面に強く関わることです。ただ、両者に境目を設けることは、私は意味がないと思っています。

道徳は、その中心は社会のためではなく、子供が幸福になるため

に教えていることです。正直な生き方をしていて人の方が、統計的には圧倒的に多く幸福になります。嘘つきの人は他人から信用されませんから、いざというときに誰も助けてくれないので、不幸になりやすい。

ですから、嘘をついたほうが利益を得ると思われるような時でも嘘をつかない、そのような心の強さを育て、嘘をつかないように習慣化させるほうが、子供のためになるのです。

一方、宗教は自我に気づかせます。自分を見つめる自分です。その自我を広い視野に置くようにさせます。広い視野から見たら「今の不幸は、こういう状況の中のことだ」と分かると、耐える力ができてくる。こうした意味では子供の幸せにつながっているところがあられるわけです。

## 公民科の教科書で説明

ここで、中学三年生で教える「公民科」について取り上げます。教

育基本法の改正を受けて、学習指導要領では「公民科」で宗教について触れることになったのです。ですから今年三月に検定に合格した全ての公民教科書では、宗教について書かれることになったのですが、しかし、実際にはほとんど書いていない教科書もあります。

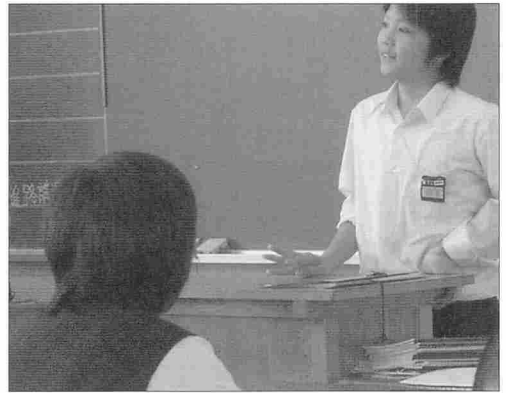
そこで、私が作成に関わった『新しい公民教科書（自由社）』について触れさせていただきます。

人間の文化の要素は「科学」と「芸術」そして「宗教」です。その説明するか、この教科書では二ページにわたって書いています。

書き出しでは「自分の生き方について素直で真剣な気持ちをもって考えたことが一度もない人はいない。宗教とはそうした心のあり方にかかわるものである」と説明しています。

次に「自然への感謝」という見出しで「人間は…他の動物とちがって、自分たちが自然の恵みによって生きているということが分かるようになる。そこから自然へ感謝

# 美しいものを美しいと感じる感性があることに気づかせることが大切



する心の動きが生まれ、自分より強い大きな力を想像するようになる。そしてその大きな力を敬い、畏れ、自分も正しくあろうとする。この心の動きを宗教心といい、だれの心にもある」と書き、宗教が芽生える形を述べています。

また、「世界の宗教」として「宗教はこの宗教心をもとに自然への崇拜から始まる。時代が進むと、人間の周りの世界に対する見方や、人間の生き方について、新しい考え方や生き方が生まれ、そのためにいろいろな宗教が現れる」と書き、「日本の宗教」について「現在、日

本には、神道や仏教のほかにも、キリスト教をはじめ、さまざまな宗教が入ってきており、また、新しい宗教も生まれている。いずれも、人の心を救い、人を幸せにし、社会に平和をもたらそうとしているのである。人々は宗教によって心を洗い、生きることの意味を考え、真剣に生きようとしている。私たちは宗教に対して正しく理解し、正しく接していかなければならない」と締めくくっています。「宗教とは何か」を中学三年生で理解できるようににまとめたつもりです。

## 芸術を教える

「芸術」については「人間には美しさに感動する心がある」「美しい真つ赤な夕日を見て感動したり、顕微鏡で極微の世界をみてその美しさに感動する。ところで、こうした美しさというものは、机や椅子のように、私たちの外に本当に存在しているもののだろうか。それを見たときの私たちの心を通して存在しているものではないだろ

うか」と書いています。

美しいというものは、物として存在しているのでなく、美しい状態のものを見たときに美しいと感じる心が先にあつて、それを見たときに、美しいと感じる。そうすると、美しいことを美しいと感じる感性が先にある。中学生にそのことに気づかせ、感動を与えることが大切ではないでしょうか。

「人間の感性は人間同士でほぼ共通性があるといえるようだ。芸術はこの共通する感性をもとにして、受け止めた美しさを他人に伝え、感動させようとして表現しているのだ」。この共通性がなければ芸術は成り立たないわけです。

## 教科書にきちんと書かれているか

ところで、各社が出している公民教科書を比較してみると、例えば「家族」は、私たちの教科書は二単元四ページを使って書いています。最近の公民教科書は家族のことをほとんど書かなくなってい



## 「家族」や「国家の役割」 などをきちんと取り上げた 教科書が少ない

ます。これも重大な問題です。人間が生きる単位が家族です。今回の東日本大震災を見ても、家族同士の助け合い、家族の絆が、人間の生きる上での基本になっていることがわかります。そのことを考えたとき、教科書に「家族」という単語しか出てこないというのは問題ではないでしょうか。

これは文部科学省にも責任があります。学習指導要領にも家族のことはあまり書かれていないのです。個人主義が蔓延して、個人と社会が直接に対応し、その間にあるべき家族が消されるのです。教育から家族を抜いて考えるという

のは、社会の崩壊、倫理の崩壊につながる危険性があります。

それから、公民では「国家の役割」について教える必要があります。「人権」についてはよく言われますが、人権は国家が存在するから保障されるものです。国家が担う四つの役割の一つなのです。その他には、防衛、社会秩序の形成、社会資本の整備といったことがあります。私たちはそのような役割を国家に託して、平和な社会生活をしているのだということをきちんと教えなければなりません。

さらに「愛国心」と「公共の精神」です。改正教育基本法で愛国心を謳い、公共の精神を謳っています。公共の精神は改正教育基本法の中に二回出てきます。それほど強調されているのですが、きちんと取り上げている教科書が少ない。

公共の精神は、戦後教育の一つの反省でもあります。民主主義が個人の自由という側面からばかり強調されたことに対する反省として出てくるわけです。「自由と責任」の「責任」にあたるものです。ですから子供たちにしつかり伝える必要があります。E

「圓」教育フォーラム「講演六  
月十八日」より

# 日本人は偉大だ

いちばん心に響く！  
世界に誇る20人の生き方

杉原千畝  
望月カズ  
新渡戸稲造  
西岡京治

朝河貫一  
野口英世  
鈴木大拙  
ラグーザ玉

織田樞次  
今西錦司  
新島襄  
ほか

学校でも  
ちやんと  
教えて  
ほしい！  
日本の心



増子岳寿 著 四六判 / 246頁 1680円

ご注文は書店へ、お急ぎの方は下記へ

コスモトゥーワン  
tel.03-3988-3911 fax.03-3988-7062  
http://www.cos21.com  
〒171-0021 豊島区西池袋2-39-6-8F

# 両親に伝えたい言葉「ありがとう」と「ごめんなさい」

私たちは親子のような近い関係ほど葛藤を抱えやすい。その時、「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉を伝えれば、親子のポジティブな気持ちの交流が始まり、心のあり方がいい方向に変わる。

## ポジティブな心と ネガティブな心

前回、私の大学教員時代に、両親に感謝の手紙をレポート課題として書かせていたこと、さらにそれを会ったことがない父親に伝えて、大きく変わった学生のことをお伝えしました。私は、カウンセリングの中で、感謝だけでなく、両親に対して「ありがとう」と「ごめんなさい」の二つの言葉を伝えることを勧めています。

私たちの心の中には、ポジティブな心とネガティブな心があります。ポジティブな心とは、思いやりや愛情、いつくしみなどの気持ちです。ネガティブな心とは、不安や怒り、ねたみなどの気持ちです。この正反対の両面が混在しているのが私たちの心の中です。この二つの部分は、その時々で別々に出てくることもあります。例に出でくることがありますが、例えば、親友が幸せになっっているのを見て、素直に喜べる気持ちと妬ましい気持ちが一緒に出てくる、というような状態です。

私たちの心の中には、ポジティブな面とネガティブな面は、同じ気持ちの面同士で出会っていき、という特徴があります。話をしていくときにも、どんな内容の話をしているかではなく、どんな気持ちで話しているかによって、相手との出会い方が違ってくるといふことです。こちらがポジティブな気持ちで接すれば、相手もポジティブな気持ちになります。こちらがネガティブな気持ちで接すれば、相手もネガティブな気持ちになります。もう少し具体的に言えば、優しい気持ちの人と一緒にいるとこちらも優しい気持ちになっってくるし、おおらかな気

持ちの人と一緒にいるとこちらもおおらかな気持ちになっってきます。逆に、イライラしている人と一緒にいるとイライラしてくるし、不安でオドオドしている人の近くにいると、こちらも不安になっってくるか、イライラしてきます。こうした関係を図にすると図1のようになります。

ところで、ネガティブな気持ちというのは、相手に嫌な思いもさせますが、それを感じている自分

## 塚越克也

つかこし・かつや  
臨床心理士

1963年生まれ。九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程。九州女子短期大学と駒沢女子大学の教員を経て、現在は株式会社オルタナティブ教育研究所代表取締役。心理マネジメントコンサルタントとして、学校や企業での研修やカウンセリングをおこなっている。また、公立学校でのスクールカウンセラー歴は15年で、現在も本業の傍ら、東京都スクールカウンセラーとして都内の中学校に勤務。



のでしょか？

なぜ、この二つの言葉が大切な

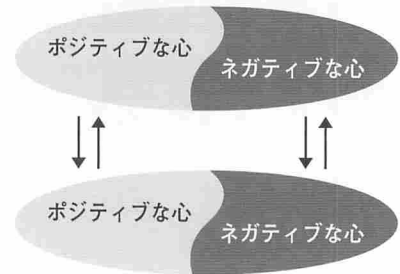
ちになっ

自身も辛いものです。ですから、誰でも出来るだけポジティブな気持ちでいたいと思いますし、自然とポジティブな気持ちでいられるような人と付き合うようになります。仲良しの友人とは、一緒にいて、ポジティブになれる人、愉快な気持ち、楽しい気持ち、穏やかな気持ち、優しい気持ちでいられる人のことです。ネガティブな気持ちにさせられる人と一緒にいたいとは思いません。

## 身近な関係ほど 葛藤も抱えやすい

ここで問題なのは、関係が近くなればなるほど、ポジティブな思いとネガティブな思いの両面が一緒に出てくる、ということ。一番近い関係は、親子であり夫婦です。同じことを近所のおばちゃんから言われれば素直に聴けるけれど、母親から言われたら腹が立つ、という経験は誰にでもあると思います。よその子供であれば、やさしく論じてあげることができるけ

【図1】  
心の構造と  
コミュニケーションパターン



ポジティブな心＝  
愛、いたわり、やさしさなど  
ネガティブな心＝  
不安、怒り、ねたみ、嫉妬など

れど、自分の子供だと、つい叱り飛ばしてしまう、ということもあるでしょう。また、誰が一番腹が立つかと言えば、多くの場合、男性は妻に対してであり、女性は夫に対してです。会社の同僚や友人であれば気にならないことが、自分の妻や夫だとカチンとくる、許せない、と言うことはよくあるでしょう。もちろん、一番愛している一番大切なのも、自分の親であり子であり妻であり夫です。このように、一番ポジティブな感情をもっている人に対して、ネガティブな感情が一番向かいやすいのです。

ですから、私たちは親子関係や夫婦関係に葛藤を抱えるようになります。ネガティブな思いが強くなると、親子や夫婦だと、友人関係のように離れることができず、こうした身近な人への葛藤が心の問題を引き起こしてようになります。特に親との関係は重要です。親は自分の原因であり、自分は親の結果だからです。親を好きになれなければ、本当の意味で自分を好きになることはできないでしょう。親とは、自分自身のアイデンティティの根源だ、と考えてもいいかもしれません。

です。この二つの言葉は、無条件にポジティブな言葉です。腹が立っている相手、憎んでいる相手には、「ありがとう」や「ごめんなさい」という言葉は言えません。ですから、親に対して、この二つの言葉を伝えると、心の中の葛藤が減ってきて、親へのポジティブな思いが増えていくことを感じられると思います。また、言われた親の方も、子供の言葉が親自身のポジティブな気持ちに届きますから、自然と子供に対してポジティブな感情をもつようになります。そうして親子のポジティブな気持ちの交流が始まるようになります。そうなれば、親子関係は濃くて良いものになるでしょう。さらに先に書いたように、親は自分のアイデンティティの根源ですから、親子関係がポジティブなものになれば、自身自身のことより好きになってきますし、自尊感情も高くなります。その結果、心のあり方や考え方が、いい方向に変わってきますし、そうなれば生活自体がいい方向に変わってくるようになります。E

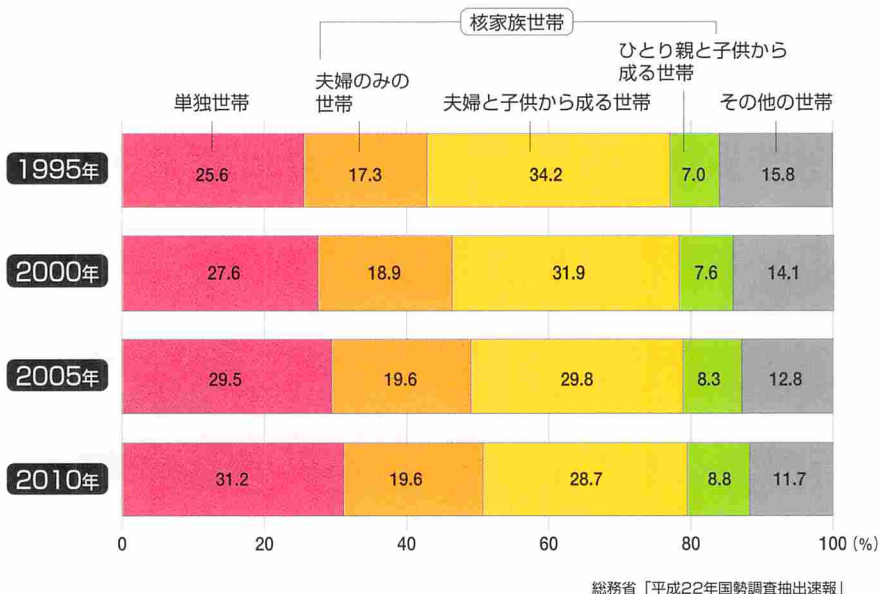
## ポジティブな 親子の交流に

ここに親に「ありがとう」と「ごめんなさい」を伝える理由があり

総務省「国勢調査」

# 「単独世帯」全世帯の3割超、最多の家族形態に

一般世帯の家族類型別割合の推移



総務省が発表した二〇一〇年国勢調査速報によると、一般世帯数が五千九十二万八千世帯と調査開始以来初めて五千万世帯を超えた。このうち一人暮らしの「単独世帯」は全世帯の三割を超える三一・二％に上り、最も多い家族形態（類型）となった。

国勢調査は五年ごとに実施。前回調査では「夫婦と子供世帯」（二九・八％）割合が「単独世帯」（二九・五％）割合をわずかに上回っていた。今回初めて「単独世帯」割合が最多となり、一般世帯一世帯当たりの人員は二・四六人と世帯規模の縮小が一段と進んだ。世帯人員別では四人以上の世帯はいずれも減少しており、特に六人以上の世帯は前回より一〇％以上減少。「単独世帯」「核家族世帯」ではない、その他「三世帯世帯」などは、最も少ない一一・七％。家族の姿

は、少子化・非婚の進行で大きく変貌しつつある。

また高齢化が一段と進み、六十五歳以上の人口は前回より一四・一％増の二千九百二十九万三千人。総人口に占める六十五歳以上の割合は、前回二〇・二％から二三・一％に上昇。前回に続いて世界で最も高い水準にある。一方、十五～六十四歳人口は四・〇％、十五歳未満人口も四・一％減少し、労働力人口の不足は経済に深刻な影響を与えている。

高齢者の一人暮らしも増えている。六十五歳以上の一人暮らし世帯は四百五十七万七千人。六十五歳以上人口の一五・六％に当たる。地域社会とのつながりが薄れ、独居老人の孤独死の増加が社会問題となりつつある。

一方、少子化に影響する十五歳以上の「未婚」の割合は、男性三一・五％、女性二三・〇％。それぞれ前回より若干低下したとはいえ、高い数値だ。生涯、結婚しない未婚者の増加は、超高齢化社会を一層孤独で不安定なものにする。

東京都「携帯電話利用調査」

携帯電話利用のルール、親子で意識のズレ  
「ルール決めている」親73%、子45%

東京都がまとめた「平成二十二年度インターネット・携帯電話利用に関する実態調査報告書」によると、「フィルタリングを活用している」「使い方のルールを決めている」という割合が、前回（二十年

度調査）より増加した。情報モラル教育・情報リテラシー教育の成果と見られる。

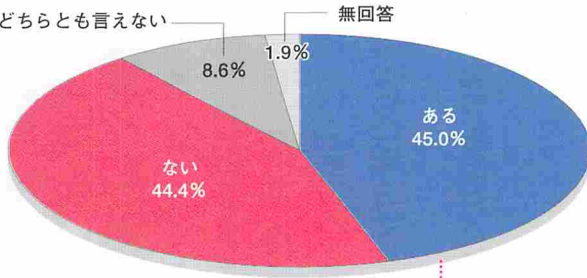
今年一、二月、都内公立小中学校の児童・生徒（回収約一万六千百人）と保護者（同約一万二

千七百人）を対象に行ったもので、携帯電話にフィルタリングを付けている割合は全体で三〇・七%から四四・五%に増加。フィルタリング活用が増えたことで、トラブルに巻き込まれる割合は一八・九

徒の方は四五・五%。また約六割の保護者が携帯電話利用を「注意したことがある」と答えているのに対して、「注意を受けたことがある」という児童・生徒は四割強に止まった。両者間では意識のズレが見られた。また子供が保護者から注意された内容では「料金の高さ」や「利用時間の長さ」が最も多く、有害サイトやプロゲ、プロフィールサイトなど内容に関する注意は非常に少なかった。

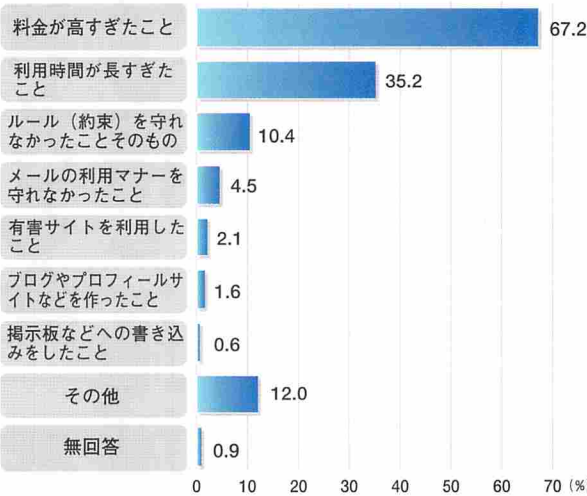
小中高生の携帯電話の利用について

■携帯電話の利用で保護者の注意を受けたことがあるかどうか  
どちらも言えない



■どのような注意をされたか

複数回答（「注意されたことがある」という子供のみ）



東京都「平成22年度インターネット・携帯電話利用に関する実態調査報告書」

から一五・〇%に減った。一方、高校生では「付けていない」（五六・九%）が「付けている」（二九・三%）を大きく上回り、四人に一人がトラブルの経験がありと回答している。

東京都では、子供を犯罪被害や有害情報から守るために、携帯電話機能の推奨の基準を設けることを発表した。推奨の基準では、小学生的の携帯はインターネット接続機能を外し、保護者が登録した相手とのみ通話やメールができる機能を設定する。中高生の携帯は有害サイトへの接続制限や深夜利用の制限などを盛り込んだ。携帯電話会社社に求めていくもので、強制力はない。

子供をトラブルから守るためには、やはり身近な親の見守りや注意が鍵と言えそう。

# 「親育を考える会」家庭を基礎に学校支援と地域づくり

家庭教育の大切さを見直し、家庭を基礎にした地域づくりをすべき。そして家庭・地域から学校支援をしたい。

## 家庭を基礎に地域づくり

今年一月、「親育を考える会」を設立しました。

本来、「教育」というのは「学校教育」と「社会教育」、そして「家庭教育」の三点セットを言います。この三つが連携・融合し合っていないところに「日本の教育」があります。

その中で、昭和四十年代後半、当時の文部省の社会教育審議会が家庭教育の中に「聖育」という考え方を示しています。これは「躰」「マナー」「家訓」のようなものだと云えます。各々の家庭が持っている、「わが家では子供をこう育てる」「子供にはこう育てほしい」という

ものです。

ところが、そうした聖育はいっしか消えてしまいました。文化・伝統や生活歳時記が家庭で忘れられ、子供たちにも受け継がれなくなっていました。一方で、核家族化や少子化、地域のつながりの減少（無縁社会）などを背景に、子育てに自信を持ってない親、過保護・過干渉な親も増えてきました。また、親の無責任により家庭が崩れてしまった生徒たちを何人も見ました。

家庭や地域が崩壊する危機的状況の時代、各家庭が家庭教育の重要性を改めて見直す必要があるのではないかと。そして家庭を基礎にした地域づくりをすべきではないかと。そうした思いから有志で「親

育を考える会」を設立することになったのです。

ちょうど改正教育基本法に「家庭教育」の条項が入り、その中国や自治体に家庭教育を支援する施策を講ずるよう求めています。そうした家庭教育の支援をやっているというのが、私たちが訴える親育です。

## 尊敬される親をめざせ

さて、親育が警鐘を鳴らしている（提唱している）課題は、簡単に言うと次の四点です。

①「大人の文化に子供を入れるな」……例えば居酒屋などに行くと、夜の十時、十一時に小さい子供を

連れられた家族が来ています。周りでは大人たちが変な話もしているわけですが。そこは「大人の文化」の場所であって、親の都合で子供を巻き込むべきではありません。

②「便利さを追求するな」……便利なのが正義のように受け取られやすいですが、そうでしょうか。座ったままで何でもできる世の中だから、楽なことに走ってしまつて便利さが人間をダメにしているのではないのでしょうか。

③「あえて貧乏になれ」精神的貧乏にはなるな」……ほとんどの親は、子供には苦労させたくない、生



## 花香健司

はなか・けんじ  
親育を考える会代表  
元中学校長

1949年生まれ。千葉県内の小中学校教員、校長を務めた他、国立中央青年の家、県教育委員会などに勤務。柏市立高柳中学校で「高柳地域ネットワーク隊」を作るなど、学社融合に取り組んでいる。

活に困らないようにしてあげたいと思うでしょう。しかし「本当にそれでいいのか」と私たちは思うのです。社会は厳しい。その社会に子供たちは将来出ていきます。ですから、そういう厳しさも教えるべきではないでしょうか。

④「もの分かりの良い親が子供をダメにする」：理屈抜きで悪いことは悪いと体を張って教えてあげることが大切なのではないでしょうか。特に父親は、「友達でも」「仲間でも」ない、子供にとって理想とされる、尊敬される大人を目指すべきです。

よく、子供は親の背中を見て育つと言いますが、今の日本の社会では「背中」や「働いている親の姿」はなかなか見えません。ですから夫婦関係が大切です。母親が子供の前で父親の悪口を言ったりすると、子供も父親を軽蔑するようになります。そうなるとう家庭の雰囲気も悪くなります。

背中を見せて子供を育てるといふのは、夫婦の間で協力していけば、いくらでもできることです。

## 地域で学校を支える

そして親育の活動は、学校・地域・家庭の連携・融合を目指す「地域からの学校支援」でもあります。

私は高柳中学校の校長時代、「高柳地域ネットワーク隊」(TCN)を作りました。保護者はもちろん、地域住民に隊員として登録してもらいました。

もともと、このような活動を考えたのは、私が小学校に赴任した時、地域で防犯パトロールを結成したのがきっかけです。平成十五



家庭教育の重要性を見直す必要がある

年のことです。

かつての日本社会は、学校があつて、家庭を含めて地域がそれを支えるという構図がありました。このように学校と家庭と地域が一緒に行動する。そのため、学校からは良いことだけでなく、悪いことや不備な点なども報告しました。実名は出しませんが、生徒がこういうことをしたと状況を率直に伝えただけです。

不思議なことに、学校が地域や家庭に情報を提供すると、それ以上のもが返ってきます。例えば「万引き防止のため、このような指導をしています。地域でもこのようお願いします」と依頼します。コンビニの前で夜遅くまで子供たちが集まっていたら、「早く帰るなさい」と声をかけてくれる方々が増えてきたのです。

ただ、声をかけるだけでは無視されることも少なくありません。そこで当時の「生徒会」に依頼し、特別のワッペンを作り、シンボルとして運動に参加してくれた父母に付けてもらいました。

学校からは「ワッペンを付けている人には、ちゃんと挨拶しよう。声をかけられたら『ありがとう』ございます」と言おう」と指導しました。こうして、生徒が学校を出ても、地域の人の子供を見守ってくれるシステムができたわけです。すると見事に悪いことが減っていききました。

私は、地域は道路で、学校と家庭は車の両輪だと考えています。車がスムーズに走るためには、道路がきちんと整備されていなければなりません。学校と家庭がお互いに助け合う。そのためにも地域づくりが重要だと思います。私は校長の時、自分で地域に挨拶に回りました。校長が自ら学校の外に出て、肌で感じるといった、人的情報源も大切で、地域を知るスタートであり、経営上の初歩だと考えていました。

この会は生まれたばかり。我々の主旨は、いろいろな意図・理念をもった「会」「グループ」の方々と共に活動したいし、理解していただきたいと考えています。■

## 法律婚世帯が 半数に

二〇一一年初頭、オバマ大統領は「強い父親との絆、強い家族の絆」の年と位置付け、「父親」「家庭」のプレザンスの必要性を訴えた。米メディアでは、オバマ氏はミシェル夫人とともに「理想の夫婦」として取り上げられることが多いが、同氏の言う「家庭」とは、法律婚家庭のみならず、同棲やひとり親など様々な形態の「家族」も含まれている。

米国では、七〇年代以降、伝統的な法的婚姻制度自体が崩れて来ている。ここ数年来の女性の婚率の低下、同性婚推進運動の推移をみても、「法の下による婚姻」は、多くの米国市民に魅力を感じさせないものとなっている。

二〇一〇年の米人口動態調査によると、法的に婚姻状態にある世帯は、全世帯の半数以下まで落ち込んでいる。一九五〇年では七八%あった法律婚世帯が、二〇〇〇

年には五二%。二〇一〇年には四八%まで落ち込んだ。米国では現在、全世帯一億一千七百万世帯のうち、婚姻世帯は五千七百万。次に多いのが単独世帯で全体の二七%にあたる三千百万だ。

今後、伝統もしくは宗教的な価値に重きを置かない風潮が強まれば、婚姻制度は一層の形骸化が進むだろう。一方で、子供がいても結婚していないカップル、シングルペアレントとして一人で子供を

育てる親など、さまざまな形態の家族が増えていく。しかし、法に基づかない恣意的な「家族関係」は負荷の一番弱いところにしわ寄せが行くことになる。それは、子供だ。

## 法律婚家庭の方が 経済的にも安定

米国では未成年(十八歳以下)は、約七千五百万人に上る。このうち、七〇%にあたる五千二百万人が両親がそろう家庭に育っている。しかし、ひとり親家庭に育つ子供も二千万人、さらに親がいない中で生活する子供も三百万人おり、少ないとは言えない状況にある。

最新の研究では、世帯の家族形態の如何により、経済状況が全く違うことが明確な事実となっている。さらに、子供の経済的成功にしても、家族形態が大きく影響することもわかってきた。

この研究は五月末、米保守派団体「家族調査協議会」(FRC)の宗教調査研究所が発表したもの。こ

ワールド・アフェアーズ

# 子供の成功には両親の 婚姻形態が影響

## —米シンクタンク研究

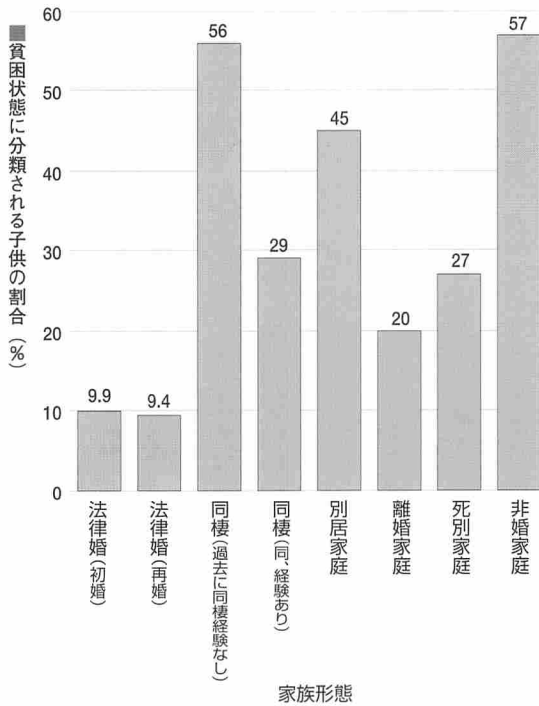
「家族」の在り方が多様化する米国。法律婚を男性と女性の異性間のみとする概念は差別とみなされ、法的優遇措置は同棲などの事実婚にも適応される。そんな中、伝統的婚姻が家族に経済的安定をもたらしているという研究が発表された。

ジャーナリスト 内田 宏



## 家族形態別に見た 貧困状態にある子供の割合

米「家族調査協議会」研究報告より

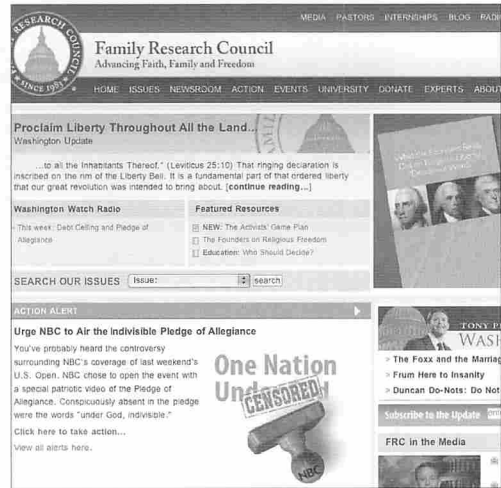


の研究を主導したパトリック・フェイガン所長は、さまざまな家族形態のうち、カップルが法的に婚姻状態にあることが、もつとも経済的に安定しており、子供の経済的成功にも好影響を与えていると主張している。

「婚姻と経済的安定：婚姻による家庭経済の浮沈」と名付けられたこの研究では、法律婚世帯で、貧困レベルにある家族はわずか五・八％にすぎないことが明らかにされている。

平均年収を見て、初婚の法律婚世帯では八万二千ドル、再婚世帯では六万六千ドルと安定している。一方、離婚世帯は三万七千ドル。「初婚」の同棲世帯で二万九千ドル。未婚のシングルペアレント世帯に至っては二万六千ドルと大きな格差が生じている。

研究を発表した「家族調査協議会 (FRC) のウェブサイト <http://www.trc.org>



## 失われていない 伝統的家族の価値

離婚してシングルマザーになった女性でも、新たなパートナーと同棲形態よりも法律婚を選択しているとの報告もなされている。

当然のことながら、婚姻家庭で育った子供にしても、就職や職場での昇進、転職などでも、より成功している。同棲やひとり親世帯で育った子供の約六割が貧困レベルにあるが、法律婚世帯の場合は約一割程度。また、成人してから収入にしても、高収入者の約三

割が法律婚世帯出身者に占められていた。

「法の下の平等」「自由」をうたいながら、その理念を過度に拡大解釈することで、米国の家庭制度は多様化の一途をたどっている。しかし、家族調査協議会の発表を見るまでもなく、この多様化は、貧富の格差を増大する原因ともなっている。うがった見方をすれば、社会の基礎単位となるべき家庭制度が崩壊すれば、国家自体も弱体化せざるを得ないだろう。

しかし、希望の種もまだ残っている。民間の世論調査会社「ピュー・リサーチ・センター」によると、米国人の六九％が家庭に父親がいることが望ましいとし、七四％が母親がいることが望ましいとも回答。家庭に二親がいることが「子供が幸せに成長するのにふさわしい環境」と答えている。

米国人の多くが、父親と母親がともにいることが子供の幸せに必要な不可欠と考えている。伝統的な家族の価値はまだ失われてはいない。E

# 福沢諭吉——新しい日本の建設を援けた「平民」の生涯

涙もろく、人を惹き付ける魅力を持っていた福沢諭吉。新しい日本建設のため、官吏ではなく民間から政府を助け続けた。

## 波乱の生涯は父の死が発端

天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云えり。

『学問のすゝめ』初編

福沢諭吉は天保五年（一八三五）十二月十二日、大阪玉江橋北詰の豊前中津藩蔵屋敷において生まれた。父・百助は十三石二人扶持の中津藩士で、中津藩からの廻米を取り扱って、藩の負債を大阪の豪商とのあいだで折衝する下級士族だった。彼はまた漢学者であり蔵書家でもあったが、下級士族の境遇の故に、やむなく金銭を扱う俗事にしたがっていた。その彼が以



福沢諭吉像＝慶応義塾大学・三田キャンパス

前から探し求めていた『上諭条例』

（六十四冊）を、諭吉誕生の日に運

良く入手した。「諭吉」という名は、

この書物に由来するとされる。

福沢諭吉は満一歳半のとき、そ

の父を「脳出血症」で失った。諭

吉の波乱に富んだ生涯は、まさに

この事件が発端になったといえる。

いわば、彼のトラウマ（精神的外

傷）といえるだろう。

明治末年以来、父・百助は部下

の「私曲」（不正）の責任をとって

「引責自刃」した

という説がある

からだ。（河野健

二『福沢諭吉

生きつづける思

想家』講談社現

代新書）

『福翁自伝』に

は、このように

回顧されている。

―「私は毎度こ

のことを思い出

し、封建の門閥

制度を憤ると共に、亡父の心事を

察して独り泣くことがあります。私

のために門閥制度は親のかたきで

ござる」。そのまま部下の不正を放

置すれば、父・百助は失職するだ

ろう。自殺することによって、お

家断絶は許されて妻子だけは家禄

にありつけることになる。勿論表

向きには病死として処理されたか

ら、諭吉がそれを口外しなかった

のも無理はない。が、「亡父の心事

を察して独り泣く」諭吉の胸中は、

われわれにも痛切にひびいてくる。

前述した父・百助の死から六十

数年経ってなお、「私のために門閥

制度は親のかたきでござる」（『自

伝』という諭吉の痛烈な批判を理

解するうえで、百助自殺説はなお

存在根拠を持つといえるだろう。

## 人間・福沢の心豊かな情愛

ところで、いろいろな回想を読

むと、福沢諭吉は涙もろい、人を

惹きつける魅力を持った人物だっ

たようだ。そこには、日本の近代

をになった者の素材で、強い精神と心豊かな情愛が生きていた。

朝鮮独立党の第一人者金玉均は、福沢の「朝鮮政略論」に注目し、しばしば来日して福沢と交渉を持った。その関係は個人的と言えるほどだった。が、甲申政変に敗れ、金玉均ほか数名は日本に亡命、福沢の庇護を受けることになる。その後、明治十九年になって内務大臣山県有朋は、ついに金玉均に国外退去を命じた。彼は朝鮮人刺客の計略にかかって、明治二十七年（一八九四）上海に渡り、そこで暗殺された。



小泉信三『福沢諭吉』岩波新書（筆者提供）

福沢は憤然として「時事新報」に社説を書き、駒込真浄寺の住職寺田福寿に金玉均の位牌をつくらせ福沢家の仏壇に安置、その法要を営ませている。さらに、金玉均が上海で惨死後、福沢はその未亡人と遺児の一人娘との不幸な境遇を憐れみ、東京に呼び寄せて世話してやろうと考えていた。当時、京城（ソウル）に勤務していた高見鉄幹（時事新報特派員）に手紙を書き、慰問状に見舞金百円を添えて未亡人に手渡している。当時の百円は、今のほぼ百万円に相当する金額だが、しばしば金品を送り届けて援助していた。

また、高見鉄幹に遺児の令嬢との結婚を、いわば国際結婚を勧めている。結局、金未亡人母子の日本への渡来は、一族の反対によって実現しなかったが、人間・福沢諭吉の面目躍如たるエピソードではないか。（石河幹明『福沢諭吉伝』第三卷）

## 「脱亜論」が意味するもの

ところで、有名な「脱亜論」は明治十八年三月十六日の「時事新報」社説としたわずかに二千字余りの短文にすぎない。しかも、文中には一度だけ「脱亜」の文字が用いられているにすぎない。

要約すれば西洋に発した文明はアジアに迫り、ひとり日本だけはアジアを脱して（脱亜）、文明開化した。「然るに爰（ここに）不幸なる近隣に国あり、一を支那と云い、一を朝鮮と云う。この二国は「古風旧慣に恋々」として「尚俄然として自省の念なき者の如し」。これらの国は「我維新の如き大挙を企て」ないかぎり、「今より数年を出でずして亡国と為り、其国土は世界文明諸国の分割に帰すべきこと一点の疑あることなし」。そうなれば、不幸が日本に及ぶこともまた避けがたい。結論をいえば、現実の西洋に抵抗しながら、日本を西洋化することが、福沢諭吉の生涯の課題だった。

福沢諭吉の先見性のもつ現代的意義は、いささかも色褪せていないと思うが、どうか。

河端春雄  
哲学者



浜島代志子  
劇団天童/  
天童芸術学校代表

## 約束が守れたら牛飼いは

## 天の人になれたのに

「たなばた」



「たなばた」岩崎京子文、鈴木まもる絵、フレーベル館

七夕、なんとロマンティックなひびきでしょう。幼稚園や保育園で七夕行事をしますね。短冊に願い事を書いて笹につける、♪笹の葉 さらさら 軒端に揺れる お星さま きらきら 天から見てる♪と歌います。なにとはなく美しく、はかなく、寂しげなメロディーの所以は何でしょう。七夕の絵本の中で一番おすすめできるのがこの絵本です。鈴木まもるさんの絵がすばらしく良いのです。

絵の中から風や水の音、羽衣が翻る様子が感じ取れます。鈴木まもるさんは私の処女出版「えほん育児学のすすめ」(偕成社刊)の表紙、挿絵を描いてくださった画家です。

◇ ◇ ◇  
内容をみましょう。牛飼いは水

浴びしている天女の飛び衣を隠してしまい、仕方なく天女は牛飼いの妻になり、子どもがふたり授かります。子どもが歌う子守り唄で飛び衣を見つけた天女は子どもを抱えて天に帰りました。置手

紙に「わらじ千足を土に埋めその上に夕顔を植え、蔓が天に届きますからのぼってきてください」

次からが問題です。牛飼いはわらじ九百九十九足しか作れませんでした。はたして夕顔の蔓はわらじ一足分だけ天に届きませんでした。一足ぐらいいいだろうとたかをくくっていたかもしれせん。えらいのは妻の天女、足らない夫を天に引き上げてやります。父神は牛飼いに次々に難題を出しますが、またしても天女が助けます。三回目には瓜畑の番、「決して瓜を食べないで」と天女。でも、牛飼いは瓜にかぶりついてしまったのです。その途端、大水が溢れ出し、二人は引き離されてしまいました。

◇ ◇ ◇

日本、中国、フィリピン、ベトナム、タイ等の七夕物語は夫婦別れで終わりますが、朝鮮の北方、白頭山に伝わる七夕物語は、天女の妻は夫を天に引き上げ一緒に暮らします。天女は天で暮らしますが、夫と子どもは天と地を行ったり来たりします。この物語を見つけた時はビリビリと来るほど驚きました。ここまで夫を引き上げる妻がすごいですね。

私は語り芝居の台本を書き舞台に立ちます。約束を守らない夫とことん引き上げていく妻はえらいなあ、真似できないなあ、でも、妻に去られた夫の哀しみもわかるなあ、悔い改めている夫を天に引き上げるには天女の妻といえども母の心情だったのかなあ…と演じながら思うのです。観る、聞く、語ることで心にすうっと入ってきます。目

公演、講演のお問い合わせは

劇団天童まで。

TEL 0477-7031-7931

URL <http://gekidantendou.com>

mail [hamashina@gekidantendou.com](mailto:hamashina@gekidantendou.com)

# 薬物乱用防止は「家族の絆」の強化から

ここ数年の薬物問題を見ると、いくつかの特徴がある。

①大学生をはじめ若者の大麻汚染が深刻

ここ数年、大学生の大麻汚染が問題になっているが、昨年の大麻事犯の検挙人員は二千二百六十六人（前年比二四・一％減）で、急増した過去二年から減少した。ただ二十代（千八百八十六人）が全体の過半数を占め、三十代以下の若い世代が八七・〇％を占めている。また初犯率が八割を超えており、薬物乱用の「入り口」になっていることを示している。

②未成年の薬物乱用で女子の割合が急増

未成年の薬物乱用で目立つのは、女子の増加だ。ここ数年、覚せい剤は女子の占める割合が六割を超えている。大麻では昨年、二七・四％（同一〇・八％増）と急増、初

めて二割を超えた。

大麻はたばこより害が少ないといった誤った認識がある他、吸引が中心で、注射器を使う覚せい剤などに比べて気軽に手を出しやすい。しかも自宅などで栽培するため、インターネットを通じて大麻種子を購入したり、栽培方法を調

べるケースも増えている。新しい高等学校学習指導要領で、現行の麻薬、覚醒剤に加え、新たに大麻の有害性・危険性に関する指導の充実を図るとする項目を追加している。

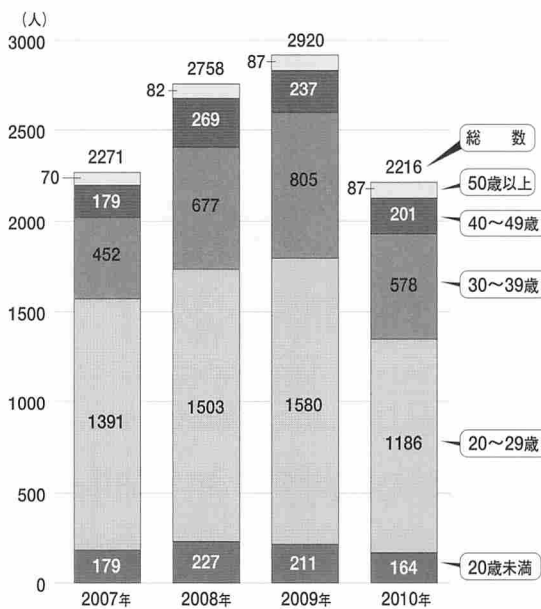
③四十代以降で覚せい剤乱用が増加傾向

四十代は中高生の親の年代にあ

たる。子供のための薬物教育はもちろん、大人に対する啓蒙も強化し、家庭内への薬物の侵入を防ぐ必要がある。

全国高等学校PTA連合会の薬物乱用防止パンフレットでは、子供たちを薬物乱用から守るために規則正しい生活習慣や家庭でのコミュニケーションを大切にしようと呼びかけている。家族の絆を育てる取り組みは、家庭の中にも薬物を侵入させないためにも重要だ。

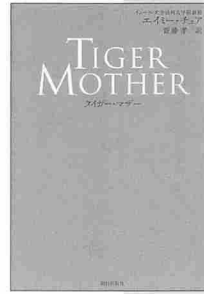
大麻事犯の検挙者数



警察庁「平成22年中の薬物・銃器情勢」

MTIGHER  
MOTHER

エイミー・チュア著／齋藤孝訳／朝日出版社／一八六九円(税込)



二人の娘を学業優秀かつ超一流のピアニストとバイオリニストに鍛え上げた中国系アメリカ人の母親と娘の奮闘記。子供に選択の自由を与えない中国式教育は、子供の自主性にまかせる自由放任主義の欧米式子育てとは対極にある。東洋と西洋の子育て観の違いから、ユダヤ系アメリカ人の夫との間でも、娘の教育を巡って対立と議論が絶えない。一位になるために、テレビやゲームはもちろん友達との遊びも制限するなど、中国式スパルタ教育に徹するチュアの姿は、驚嘆される一方批判も。長女は過激な教育に最後までついていくが、次女はある時母親の言いなりになることを拒み、自分の道

を選択していく。母・チュアの一方的な勝利で終わらなかったのは、バランスのとれた結末だ。

東洋と西洋、どちらが正しいというわけではない。虐待とも取られかねない過激なやり方でも、深い愛情に裏づけされた親子の信頼関係があれば、成功の実を結ぶ。子供の人権や自由を尊重するあまり、教育放棄が目立つ日本。ひ弱な若者を世界で勝ち抜ける人材にどう育て上げるか、做すべきところは

◇  
がれきの中で本当にあったこと

— わが子と語る東日本大震災

産経新聞社著／産経新聞出版／一六〇〇円(税込)



東日本大震災の取材で記者たちが出会った人々の物語。

故郷に大きな堤防を造ることを夢見る震災孤児の兄弟、学校や会

「魂の教育」とは何か

人格教育では、子供たちが教師や父母など模範となる人の人格に触れて良い影響を受けることが大切です。また、「人格」の語源には「魂に刻まれたもの」という意味があります。「魂の教育」は人格の核心とも言える魂の無限の可能性に気づき、その魂を強めていくこと、あるいは子供たちが自己の内面の価値に目覚めて人格の形成をなすことだと考えます。例えば、「大自然に大なるものの存在を感じる」と言いますが、そうした無限の価値、意識のようなものを自分自身の中に見出すことだと言うこともできるでしょう。

■表紙写真 ハワイの海を望む

撮影・大塚克己

■読者の声

家族や家庭生活を扱う「家庭科」

教員（東京都）

毎号、家族・家庭に関する記事を興味深く読ませていただいています。小中学校の授業の中でも、家族や家庭の生活を扱う「家庭科」は非常に重要な教科だと考えています。ぜひ取り上げて下さい。

# 節電で強まる家族の絆

夏を前に、「緑のカーテン」として利用できるゴーヤや朝顔、そして太陽光を遮るすだれやよしずの売れ行きが好調だそうです。夏の電力不足が懸念されることから、政府は企業と一般家庭に対して、昨年夏より一五％の節電を求めている

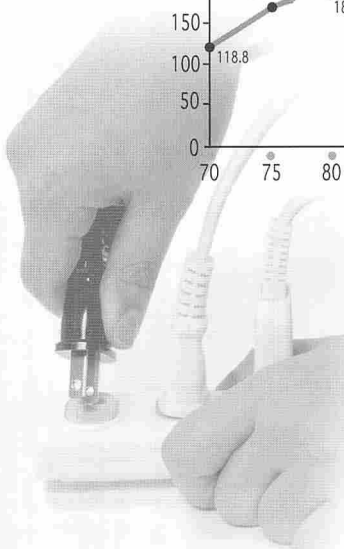
ですが、日よけの設置はエアコンの電力消費を減らすことができることから注目を集めているのです。日本の電力の三割は原発に頼ってきました。しかし、東日本大震災後、稼働できない原発があります。政府による節電要請は東京電力、東北電力管内が対象ですが、原発の安全性に対する住民の不安が高まり、定期検査を終えた原発の再稼働ができないことも予想されます。そうなると、電力不足は全国に拡大するので、節電は全国的な課題と考えるべきでしょう。

電力需要はエアコンを使う七、八月がピークです。今

## 一世帯あたりの電力消費量



数値は9電力会社の平均値  
出典：「原子力・エネルギー」図文集2011



年はこの時期、東京電力で一〇・三％、東北電力も七・四％、供給が不足します。需要が供給量を超えると、大規模停電が起きて、大混乱を引き起こしますから、それは絶対に避けなければなりません。

節電の鍵を握るのは家庭です。日本の電力消費は工場、オフィス、家庭がそれぞれ三分の一ずつとなっていますが、とくに家庭における消費の伸びが顕著です。工場やオフィスではバブル崩壊後、効率化が進んでいます。その一方で、エアコン、情報機器、大型冷蔵庫の普及など、私たちの生活が便利になったが故に、一世帯あたりの電力消費は増え続けているのです。

エアコンの節電を考えてみましょう。設定温度を二度上げると、節電

効果は一〇％、止めると一五％の節電効果があるそうです。このほか、人のいない部屋の電気を消したり、使っていない機器のコンセントを抜くなど、節電の工夫はたくさんあります。

節電で大切なのは、「不便になる」と後ろ向きになるのではなく、「社会のためになる」「ムダが省ける」と前向きに捉えること。さらには、一五％節電には家族みんなの協力が欠かせませんから、真剣に取り組めば家族の絆が強まるはず。そして、前向きの発想があれば、良い知恵や工夫も浮かぶものです。この夏、家庭でどんな工夫ができるのか。家族みんなの話し合いの場を設け、節電に積極的にチャレンジしましょう。

毎月第3日曜日は「家庭の日」  
11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めてきた「家庭の日」運動に端を発し、今ではほとんどの自治体が、第3日曜日を「家庭の日」に定めています。さらには政府は十月の第3日曜日を「家族の日」、その前後の週間は「家庭の週間」として定めました。この日を機会に、家族の強い絆を確認できれば、それは家族みんなへの素敵なプレゼントになるでしょう。

## 家庭は愛の学校

真の家庭運動推進協議会

The Association for the Promotion of True Families

〒100-0001 東京都新宿区新宿3-13-2 成約1114TL  
TEL:03(6451)7760 FAX:03(6451)7761 <http://www.apftf.jp>

●皆様の御意見や気づいたことをお寄せ下さい。教育問題に関して、皆様の身の回りでの様々な出来事や御意見などを真の家庭運動推進協議会本部までお寄せ下さい。お寄せいただいたものを参考にしながら、皆様と共によりよい教育環境や家庭づくりに取り組んでいきたいと考えています。



第3種郵便物認可  
2011年8月10日発行  
毎月10日発行・通巻255号

# 立山の開祖佐伯有頼と立山教育／富山

歴史と  
伝統の  
探訪



(左上より時計回りに)佐伯有頼像、雄大な姿を見せる立山連峰 (PIXTA)、立山開山伝説の紹介



少年佐伯有頼は白鷹と熊に導かれに踏み分け登った。これが立山開である。越中では有頼を鑑として目標に子供たちを清く強く育てた登拝こそ越中人の成人式であった。大正年間、富山の童話家大井冷光の少年少女の魂を美しく磨き上げて有頼像建立を志し、高岡の彫正吉がその原型を作った。青少年健全に育ち、清新の活力日なざることを念願し、先人の遺志「一把の土」を集め集めて、立山をかすこの地に、常若の少年像を建

平成十三年、立山開山千三百年祭の年、四月二十七日、大伴家持万葉集立山の賦詠

越中(富山)の立山は加賀の白山、駿河の富士山とともに、江戸時代には日本の三霊山として特別に敬われた。越中の男子は十歳頃になると真新しい衣類を着て隊を組み立山に「登拝」した。無事登頂を済ませ意気揚々と帰った少年を、村人はお祝いの宴を開いて迎えた。子供たちは幼いころから立山を目標に育てられ、悪いことを登れませんとたしなめられた。心は清く、体はたくましく、魂は強く育てられる「立山教育」が越中の家庭教育・社会教育だった。

この立山にはじめて登ったのは、今から千三百年も前の七〇一年、佐伯有頼(さえぎありより)という十六歳の少年だったと言われている。有頼少年は父の大切な白鷹を持ち出して遊んでいると飛び去ってしまった。やっとタカを見つけ

たときに熊が飛び出してきて、弓に矢をつがえて打つと矢は熊の胸に命中。熊が逃げ込んだ岩穴へたどりつくと、まぶしい光がさし仏様から「立山が天下にまたとない霊山であることを人は知らず登ってきてお参りする者もありません。立山を開くため全力をつくしなさい」というお告げを受ける。

その後、有頼は草ややぶを切り開いて登山道を造り、祠やお堂を建て、人々に立山信仰を教え広めた。僧となつて人々に尽くした有頼は「慈興上人」と敬われた。

有頼少年の銅像が、平成十三年に立山開山千三百年の節目を記念して、富山市郊外の呉羽山の上の広場に建立された。有頼像の後ろには大正天皇・昭和天皇のお歌碑が立っている。昭和天皇は、立山の雄大な姿に日本の国も世の中も見習ってほしいと詠まれた。E

2011

8

no.255

En-ichi

発行所  
NCU-NEWS  
(東西南北統一運動国民連合)

〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-13-2  
成約ビル2F  
TEL.03(5362)0631  
FAX.03(3354)5017  
E-mail news@en-ichi.org  
URL http://www.en-ichi.org

発行人 渡辺久義  
京都大学名誉教授

定価 400円  
[1年間5000円(送料込み)]

郵便振替番号  
00160-3-667291

●本誌に対するご意見、ご感想をお寄せください。  
●定期購読のお申し込みは、電話またはEメールでどうぞ。